

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】平成 29 年 9 月 28 日 (2017.9.28)

【公表番号】特表 2016-531081 (P2016-531081A)
 【公表日】平成 28 年 10 月 6 日 (2016.10.6)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-058
 【出願番号】特願 2016-542012 (P2016-542012)
 【国際特許分類】

C 0 3 C 27/06 (2006.01)

【F I】

C 0 3 C 27/06 1 0 1 E

C 0 3 C 27/06 1 0 1 H

C 0 3 C 27/06 1 0 1 K

C 0 3 C 27/06 1 0 1 J

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 8 月 21 日 (2017.8.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

積層柱体を有する真空断熱ガラスユニットであって、
 第 1 のガラス板と、
 該第 1 のガラス板に対向し、かつ該第 1 のガラス板と実質的に同一の広がりを持つ、
 第 2 のガラス板と、
 該第 1 のガラス板と該第 2 のガラス板との間に実質的に真空な間隙を有する、該第 1 の
 ガラス板と該第 2 のガラス板との間の縁部シールと、
 該第 1 のガラス板と該第 2 のガラス板との間の複数の柱体であって、該柱体は、
 本体と、
 該本体の少なくとも一部分上の機能層と、を含み、
 該柱体の直径は、600 マイクロメートル以下であり、該柱体の圧縮強度は、400 MPa
 以上である、複数の柱体と、を含む、真空断熱ガラスユニット。

【請求項 2】

柱体を有する真空断熱ガラスユニットであって、
 第 1 のガラス板と、
 該第 1 のガラス板に対向し、かつ該第 1 のガラス板と実質的に同一の広がりを持つ、
 第 2 のガラス板と、
 該第 1 のガラス板と該第 2 のガラス板との間に実質的に真空な間隙を有する、該第 1 の
 ガラス板と該第 2 のガラス板との間の縁部シールと、
 該第 1 のガラス板と該第 2 のガラス板との間の複数の柱体であって、該柱体は、
 焼結セラミック又はジルコニアを含む本体を含み、
 該柱体の直径は、600 マイクロメートル以下であり、該柱体の圧縮強度は、400 MPa
 以上である、複数の柱体と、を含む、真空断熱ガラスユニット。

【請求項 3】

真空断熱ガラスユニットにおいて使用される柱体であって、
 ジルコニアを含む本体を含み、

該柱体の直径は、600マイクロメートル以下であり、該柱体の圧縮強度は、400 MPa以上であり、

該本体は、テーパ状の側壁を有し、該側壁は、95°～100°の抜け勾配を有する、柱体。

【請求項4】

真空断熱ガラスユニットにおいて使用される柱体であって、

焼結セラミック、アルミナ、又はジルコニアを含む本体と、

該本体の少なくとも一部分上の機能層と、を含み、

該柱体の直径は、600マイクロメートル以下であり、該柱体の圧縮強度は、400 MPa以上であり、

該本体は、テーパ状の側壁を有し、該側壁は、95°～100°の抜け勾配を有する、柱体。

【請求項5】

真空断熱ガラスユニットにおいて使用される複数の柱体であって、

少なくとも1000個の柱体であって、該柱体はそれぞれ、

ジルコニアを含む本体を含む、少なくとも1000個の柱体を含み、

該柱体本体の直径は、600マイクロメートル以下であり、該柱体本体の圧縮強度は、400 MPa以上であり、

該柱体本体は、該柱体本体の断面積の標準偏差が5%未満である、複数の柱体。